

I. 教育理念・目標

- ・ 令和4年度も新型コロナウイルス感染蔓延の影響があったため、入試での学校滞在時間を短縮する目的で一般入試での、学科試験、小論文面接のうち、学科試験を行わなかったことは、新型コロナウイルス感染蔓延予防を考慮した最善の対策だったと考えます。
- ・ 学校の基本理念・教育理念に基づく各種ポリシーについて、学校案内、HP、学生募集要項、オープンキャンパス、学校説明会、高校ガイダンスなどで広報したことは評価できる。
- ・ 基本理念・教育目標と3つのポリシーを受験対象の高校生に積極的に広報することについて工夫をされた。しかし、入学人数が至らなかったのは今後の課題と考えます。
- ・ コアカリキュラム対応に取り組んでいると感じる。
- ・ 状況に応じて対応されている努力を認めます。
- ・ 学校の宣伝も大切であるのは、理解できるが、専門職になるための学校であるため、入学・学校生活・就職先だけではなく専門職としての魅力に触れる、職能団体の社会活動などにも触れると良いと思われれます。そのためには職能団体とさらに深い関係を持たれた方が良いと思います。
- ・ 今後、経営的に大学との差別化を考える必要があります。ある業種における地方の専門学校では、大学では学べない内容を教育することで多くの入学者を獲得しているところがあります。
- ・ 東都の魅力を十分に発揮した、東都でしか学ぶことができないメリットを伝えることで、入学人数の獲得を願います。
- ・ 外部講師には東都出身でオリンピックのメディカルスタッフの経験を持っている方もいるので、このような東都出身の講師を広報に活かしてみるのも方法の一つと考えています。
- ・ 学科試験を行わなかったことに対しての結果の考察が必要であったと思います。検討宜しく願います。
- ・ カリキュラムと個々のシラバスの関連性については検討されているので、シラバスの連続性にまで検討していただくことが望ましい。
- ・ 学校教育以外での行事プログラムは医療人としての人間性向上に必要と感じている。学校行事の内容については、適宜、点検・検証することを継続して頂きたい。
- ・ 人間性の教育について、教育内容とその成果が漠然としてるように感じます。
- ・ コミュニケーションであれば、コミュニケーションに焦点を当てた情報収集を行う方が良いと思われれます。
- ・ 社会人基礎力など、その項目をどの様に取り組み、学校行事の中にどの視点で組み込むか、具体例を挙げた方が良いと思いました。
- ・ 学習意欲の高い社会人を積極的に受け入れることで、現役の学生も通常の学級より成長が期待できるのではないかと考える。
- ・ PTの需要は広がっているといえるのでしょうか？需要が広がっているのではなく、職域が広がっていると解釈しています。
- ・ コロナの影響もあるかと思いますが、全盛期より学生の学習意識の低下を感じる。他大学の学生と比較してしまうと、東都の学生には臨床の技術よりもなぜ勉強するのか、理学療法士としてどんな理学療法士を目指すべきかなど、モチベーションを上げるための時間が割くことが多い。

- ・モチベーションが下がりやすい 2 年生の後期に特別講義を設け、スポーツ現場、中枢疾患、小児疾患などで活躍しており、かつ学生のモチベーションを上げられるような講師を招き、学習意欲を維持、向上するための対策が必要と考える。
- ・需要と共有のみではなく、社会的に給与が昇給しないことで、有名な職種であるので、現実を学生に伝え、その中で社会人基礎力のようにどうしていくことが大切かを考えさせるような、取り組みが欲しい。
- ・HP の質問コーナーで、学生や保護者の方々に対するいつでもお答えできる Q&A コーナーを活用および共有して頂きたい。
- ・HP で学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの情報公開と変更や新たに加えた情報を発信した内容について評価します。

II. 学校運営

- ・学院長をトップとする学校の組織は明確で、教務、事務などの大まかな組織図はできているが、経営陣、教員、事務、主たる実習先責任者との連携が今後はさらに必要と考える。また、経営戦略、国家試験対策も常にアップデートが重要と考える。
- ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備について、学校の規模に合わせた人員が確保されている。
- ・学校理念など学校開設時の創業者の思いなど、教員一人ひとりに伝え確認するためにも経営者を含めた親睦会など年に数回の開催を提案する。
- ・国家試験合格率の向上のため、4 年生の国家試験対策を強化した令和 4 年の国家試験の結果を出した成果を評価します。
- ・積極的に高校訪問、オープンキャンパスの時期の調整、オンライン学校説明会の開催など学生獲得の努力は評価できる。更なる企画や行事を期待したい。
- ・教職員の情報共有化を行うために、学生の個人情報の管理を徹底した状態でクラウドなどで情報共有できていたことは良いと感じる。
- ・計画改善策定は、当方に伝わっておりませんので、教員より見直しの意見がなければ、良い活動であったのではと推測されます。
- ・全校に関わる重要事項を教職員全員に通知する方法の周知と共有の徹底を継続していただきたい。
- ・教職員は学内で授業内容・方法を改善し向上させる FD や学校の管理運営や教職員に必要な知識及び技能の習得とその能力及び資質を向上させる SD は学校の体制改善と強化に重要です。今後少しずつ進めて下さい。
- ・教育活動等に関する情報の公開として引き続き H P 上に写真や動画を配信して頂きたい。
- ・情報管理体制の構築のための必要項目をあげ、早急に構築をして頂きたい。

III. 教育活動

- ・教員の知識、技術向上のためにも教員および授業評価を実施検証すべきだと考える。
- ・できるだけ早期に授業評価・教員評価を行う組織を立ち上げ、授業を評価する、教員を評価する方法を策定してください。

- ・ GPA 制度が理学療法領域での導入が可能かどうかの検討していただきたい。
- ・ 教員間での格差解消のためにも予備実験の実施検証をして頂きたい。
- ・ シラバスの到達目標を具体的なものにし、到達度を評価できるようにすること。
- ・ 教員の力量も当然あると思われませんが、到達目標を確認しなければならないようなフォーマットを作成し、提出させるなど、構造から考えないと、個人任せになってしまうと思われる。
- ・ 科目間の連続性、関係性を明確にし、学生が学びやすい科目配列になるようにするために科目編成の組織をつくられたらどうか。
- ・ これまで新型コロナウイルス感染症により、臨床実習地の訪問をしないで、電話やメールにて指導者と情報共有を図った学生指導が続いていた。今年度は 3 年ぶりに実習指導者会議が再開され、実習指導者との意見交換をする機会が作られた。実習指導者会議の再会を嬉しく思う。引き続き継続して頂きたい。
- ・ 臨床実習指導者会議では実習の内容に関して報告されたが、双方向性であったかは疑問が残ると自己評価された。臨床実習指導者会議で連携が深まるとは思えない。
- ・ 実習が始まった際から、web などでも SV・学生・教官で同時にフィードバックを確認するなどすべきではないでしょうか。
- ・ covid-19 蔓延による実践的な職業教育（臨床実習）が体系的にできないケースがあった。遠隔授業と対面授業を使い分けて学生の学修に不利益が生じないように対応する、臨床施設での実習教育が不可能な場合に代替措置を設けて臨機応変に対応する、といった学生のためのハイブリット授業ができていたと評価する。
- ・ 授業評価の実施は重要と考えられ、教員間での授業現場の閲覧を行うのはどうか。
- ・ 学校の教育水準を高めるために外部からの学校評価は重要であると思います。今年度も外部の学校関係者の評価を行っている。今後も学校関係者評価を継続していただきたい。
- ・ 4 年次の国家試験対策を強化して、学生の理解を深めることを実践された。国家試験対策への取り組みはできていると考える。
- ・ 教員の欠員が発生した場合、速やかに代替りの教員を募集し採用がなされた。速やかに対応ができていたと感じる。
- ・ 学術実績など提携している病院スタッフと共有しても良いと感じる。
- ・ 職能団体の「理学療法管理学会」との連携を勧めます。
- ・ 学会出張費の支援は学術レベル向上に必須である。引き続き継続を願う。
- ・ 近年、国内の理学療法士養成校の女子学生の割合が増えている。一方で、全国的に理学療法学科の女性教員が少ないのが問題となっているようである。貴校においても女性教員を育成することも含め、女性教員を積極的に採用することが望ましい。

IV. 学修成果

- ・ 就職率 100%が維持されていることは学生への安心につながるため、引き続き継続して頂きたい。
- ・ 国家試験対策を組織的に実践しており、成果が出ていると感じる。
- ・ 教員による学生対応は、学生一人一人に親身になっている様子を拝見している。引き続き継続して頂きたい。

- ・ 理学療法士としてのイメージを作る機会を増やすことも大切ではないでしょうか。(ロールモデルになるような方、たとえば関連病院の理学療法士のように短期効果を出しているところなど)
- ・ 同窓会が機能していない。同窓会の再会は卒後教育や横の繋がりに重要と感じる。実施を願う。
- ・ 貴校は卒業生のつながりも厚く、今後同窓会の活躍を期待します。
- ・ 同窓会のネットワークは学術、共同、教育に活用できます。同窓会の活動を活性化させ学校との繋がりを深めることは両者にとって有益となります。
- ・ 卒後教育向上において、卒業生と学校の合同セミナーは重要と感じる。是非開催して頂きたい。
- ・ 研修会や勉強会は卒業生に偏ることなく、広く職能団体に会場を貸し出すや、卒業生や学生が参加しやすく配慮するとかが必要ではないでしょうか。
- ・ 立地を生かした、会場の貸し出しを行い、学生卒業生は参加できる権利を与えるなどの配慮があると、もっと職能団体と連携できるのではないのでしょうか。登録理学療法、専門、認定、その他のキャリアもとりにやすくなると思われます。

V. 学生支援

- ・ 学生の進路・就職に関する支援は担任だけでなく、学校全体で支援している様子が見られる。引き続き継続して頂きたい。
- ・ 就職できたかではなく、希望の分野に行けたのか、そこで成長できそうかにもっと視点を置くべきではないのでしょうか。
- ・ ハラスメントに対して、職員の意識向上は良いと考える。実際に起きた場合、職員、学生間にて共有はできているか、今後の課題と感じる。
- ・ ハラスメントの規則を設定するところまでは至っていないようだが、対応は概ねできていたようである。教職員の意識は高いようだが、正式な組織と規則を作ることが望まれる。
- ・ 高等教育の修学支援新制度、日本学生支援機構、各種医療法人など、奨学金の申請支援が事務局中心に行われている。引き続き支援を行って頂きたい。
- ・ 学生の定期健康診断を実施し身体的健康管理が行なわれている。引き続き健康管理を行って頂きたい。
- ・ クラブ活動は横や縦の繋がりだけでなく理学療法士としてのコミュニケーション能力の向上につながると考える。一人でも多くの学生が活動できるような展開を期待している。
- ・ ボランティア活動が希薄である。
- ・ 主として担任が奨学金、アルバイトなどの生活環境の相談に対応しているとのこと、必要に応じ適宜相談の機会を設けて頂きたい。
- ・ 保護者会は実施していないが、必要に応じて親への連絡を実施しているとのことだが、教員と保護者間のコミュニケーションをとる機会を4年間のうち1回はあっても良いのではないかと感じる。検討して頂きたい。
- ・ 卒業生へのアンケートは学校教育向上のため必要と感じる。
- ・ 学生時代のキャリア形成などうまくできていたか、調べる必要があるではないでしょうか。
- ・ 卒業生支援は学校に立ち寄るだけではないと思います。交流を深めることは学校と卒業生の両方にとって有益だと思います。

- ・ 団体（理学療法士協会など）への入会率、登録療法士（専門理学療法士・認定理学療法士）の取得率、その他の資格の取得率など調査が必要です。
- ・ （社会人・卒業生の）リカレント教育の実施について検討して頂きたい。
- ・ 医療現場で必要とする技術、学術情報を提供する学習会や研修会など、同窓に偏っていると思います。もっと職能団体やその他の団体、地域のリハ連絡会などに、教員や卒業生が関わるが必要ではないでしょうか。
- ・ 他の専門学校と比較し、ガイダンス参加回数が妥当か検討し、入学者数増加に繋げて頂きたい。

VI. 教育環境

- ・ 購入した検査測定機器は、しっかり活用して頂きたい。学校に存在する医療機器で使用している機器、使用していないまたは使用しなくて良い機器かどうか今一度検討して頂きたい。
- ・ 検査測定機器、生理関連機器、運動生理機器、物理療法機器など大変良い環境であると思います。
- ・ まだまだ臨床実習にて、基本的な検査測定および問題点抽出から治療プログラム作成ができていない。考えられていないと感じる。
- ・ 学内での実習は臨床現場に即した内容であるかは学生の学習意欲と関係があるが、学校全体で大きな課題と感じる。
- ・ 毎年国際福祉機器展に参加し、生活環境に関する知識を得る機会をえることはとても良い活動だと思います。
- ・ 自然災害や事故を始めとする各種危機事案に対応するためにスタッフ間で防災訓練を実施することを推奨する。
- ・ 学校において防災訓練を実施することは必要と思われます。

VII. 学生の受入れ募集

- ・ 戦略的な広報活動を取り、入学者数増加に繋げて頂きたい。
- ・ オープンキャンパス、高校等での説明会、出張講義、学校案内パンフレット等により、受験生に対する広報活動が適正に行われていると思われるが結果に表れていない。原因の解明が求められる。
- ・ 受験を希望する学生を対象に学校の教育成果の説明が、高校訪問等で達成したことは評価できる。高校訪問時に得られる様々な高校生情報を吟味し新しいパンフレットを作製などの生かすことが望まれる。
- ・ インターネットを通じての広報活動（広告、SEO 対策など）に新しい学校紹介を入れたほうが良いと思う。
- ・ 東都 OB で現在、社会的に広く活躍している方々を見つけ出し、パンフレットをリニューアルする必要性を感じる。
- ・ 東都 OB の現在の職業を調査し、プロ選手のトレーナー、国際的に活躍する研究者、会社を営んでいる PT などマルチおよびグローバルに活躍できることを PR してみても良いと感じる。

VIII. 財務

- ・ 中長期的な学校の財務基盤を安定させるためには学生の確保が優先課題である。中・長期の運営基盤の強化を図るために学生確保のための中長期計画の策定が求められる。

- ・ 将来性、社会性、継続性の観点から予算及び収支計画を常に検証し、不要な予算の削減と有効かつ妥当な整備・運用を推進していただきたい。
- ・ 財務情報公開の体制整備について、情報公開を充実させ、学校法人の運営の透明性を示していく。改正寄附行為に準じた適切な財務情報公開を図っていただきたい。
- ・

IX. 法令等の遵守

- ・ 開校以来、法令および専修学校設置基準などを常に遵守し、適正な運営を行ってきたため、今後も継続して適正な運営がなされている。
- ・ 学生に対する個人情報保護については、講義で教授され、各学年担当により適宜指導されていて概ね良好と思われる。
- ・ 今後、あらかじめ公開同意を得ておく必要があるため、個人情報保護法に基づき学校独自の個人情報に対する適正な取り扱いについて規定を設けることが勧められる。
- ・ 令和2年度より学校の自己評価が実施され、その結果を学校 HP(ホームページ)で公開されている。

X. 社会貢献・地域貢献

- ・ 地域貢献活動を徐々に増やすよう活動して頂きたい。
- ・ ボランティア、地域のリハ職の集まりなど視点を広げるべきではないでしょうか。
- ・ 近隣の学校へ、怪我予防教室など特別授業を受け持っても良いと感じる。
- ・ どのような講座ができるかを、チラシを作成し、各学校の担当者に配布することも検討して頂きたい。
- ・ 理学療法士の啓蒙活動を中学校まで広めてはどうか。
- ・ 学校の教育資源や施設を依頼があれば勉強会等に施設や評価機器等を貸与している。
- ・ 渋谷という立地を生かした、校内に留まらずに公開講座を行うなど検討してもよいのではないかと。
- ・ 病院、介護施設などから依頼されるボランティア活動へ積極的に取り組んでおり、今後も多方面への学生主体のボランティア活動への推奨を進める必要がある。
- ・ 中・高等学校での出張講義を実施し、医療・福祉領域での専門職の役割と業務について講演されるなど積極的な貢献を要望する。